

B5-20～B0-30付近の浅部に10mV/V程度の弱い分極率異常がある以外に、分極率異常は認められない。

#### ⑦ B6断面(図56)

調査地北東部を南東から北西に横断する断面である。B5断面と同様に断面中央のB6-70付近を境に、南東側では10Ωm以下の低見掛比抵抗が広く分布し、特に、断面中央部には5Ωm以下の大きな低見掛比抵抗異常がある。B6-100から北西側の浅部には、100Ωm以上の高見掛比抵抗異常がある。本断面に有意な分極率異常は認められない。

#### (b) 見掛比抵抗平面図

##### ①見掛比抵抗平面図 n=1(図57)

調査地北西にある丘陵部に沿って50Ωm以上の高見掛比抵抗が分布する。調査地南西部のB0測線とB3測線の交差する付近には、50Ωm以上の高見掛比抵抗異常がある。

調査地中央部のB0-180から北東の平野部には、10Ωm以下の低見掛比抵抗が広く分布し、特にB6-80付近は2Ωm以下の低見掛比抵抗異常がある。プキル鉱山採掘跡周辺のB0-150付近、南西部のB1-65からB0-10～40にかけても、10Ωm以下の低見掛比抵抗異常がある。

##### ②見掛比抵抗平面図 n=2(図58)

n=1に比べて全般に見掛比抵抗は低くなり、調査地北西にある丘陵部に沿って分布していた50Ωm以上の高見掛比抵抗はB5-80からB6-100付近にかけての範囲で分布が小さくなっている。

調査地北東平野部に広く分布する10Ωm以下の低見掛比抵抗はn=1に比べて少し広がり、プキル鉱山採掘跡のあるB4-60には5Ωm以下の低見掛比抵抗異常がある。

##### ③見掛比抵抗平面図 n=3(図59)

全般に見掛比抵抗は低くなり、平野部に広く分布する10Ωm以下の低見掛比抵抗はB3測線を除く調査地の東部と南部に広がる。北東部のB0-270～280付近と南西部のB1-25～75付近には、5Ωm以下の低見掛比抵抗異常がある。北西側丘陵部にある50Ωm以上の高見掛比抵抗異常は北東部のB5-90～130とB2-100付近にある。

##### ④見掛比抵抗平面図 n=4(図60)

さらに、全般に見掛比抵抗は低くなり、特徴的な高見掛比抵抗異常はほとんどない。10Ωm以下の低見掛比抵抗は北東平野部と中央部のB0-150からB3-100付近に広がっている。

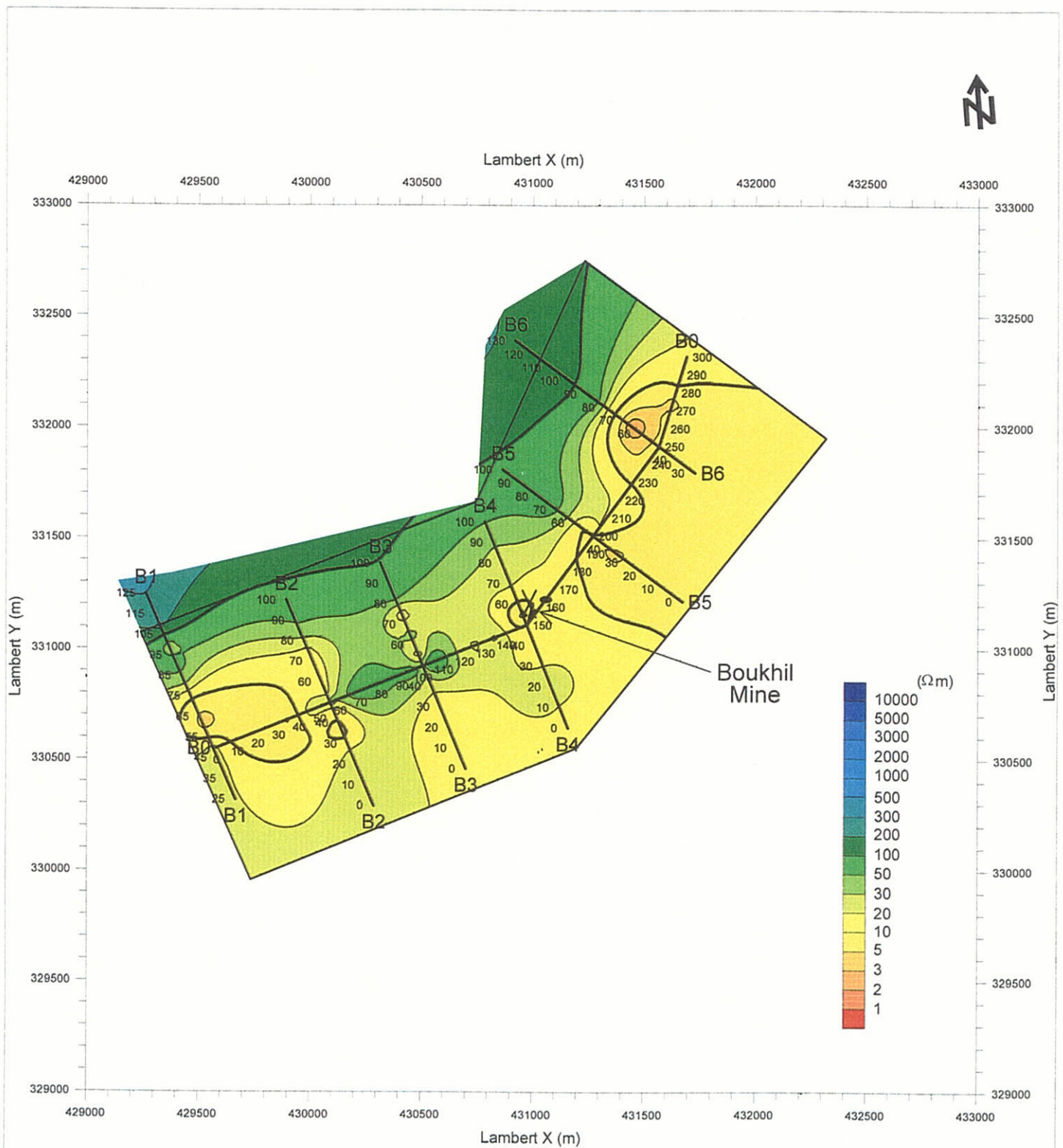
#### (c) 測定分極率平面図

##### ①測定分極率平面図 n=1(図61)

調査地中央部のセレスタイト変質のあるB0-100付近、プキル鉱山採掘跡のB0-150付近及びB0-200付近に10mV/V以上の分極率異常がある。これらの異常を結ぶような範囲で分極率が高い傾向があるが、それ以外に有意な異常は認められない。

##### ②測定分極率平面図 n=2(図62)

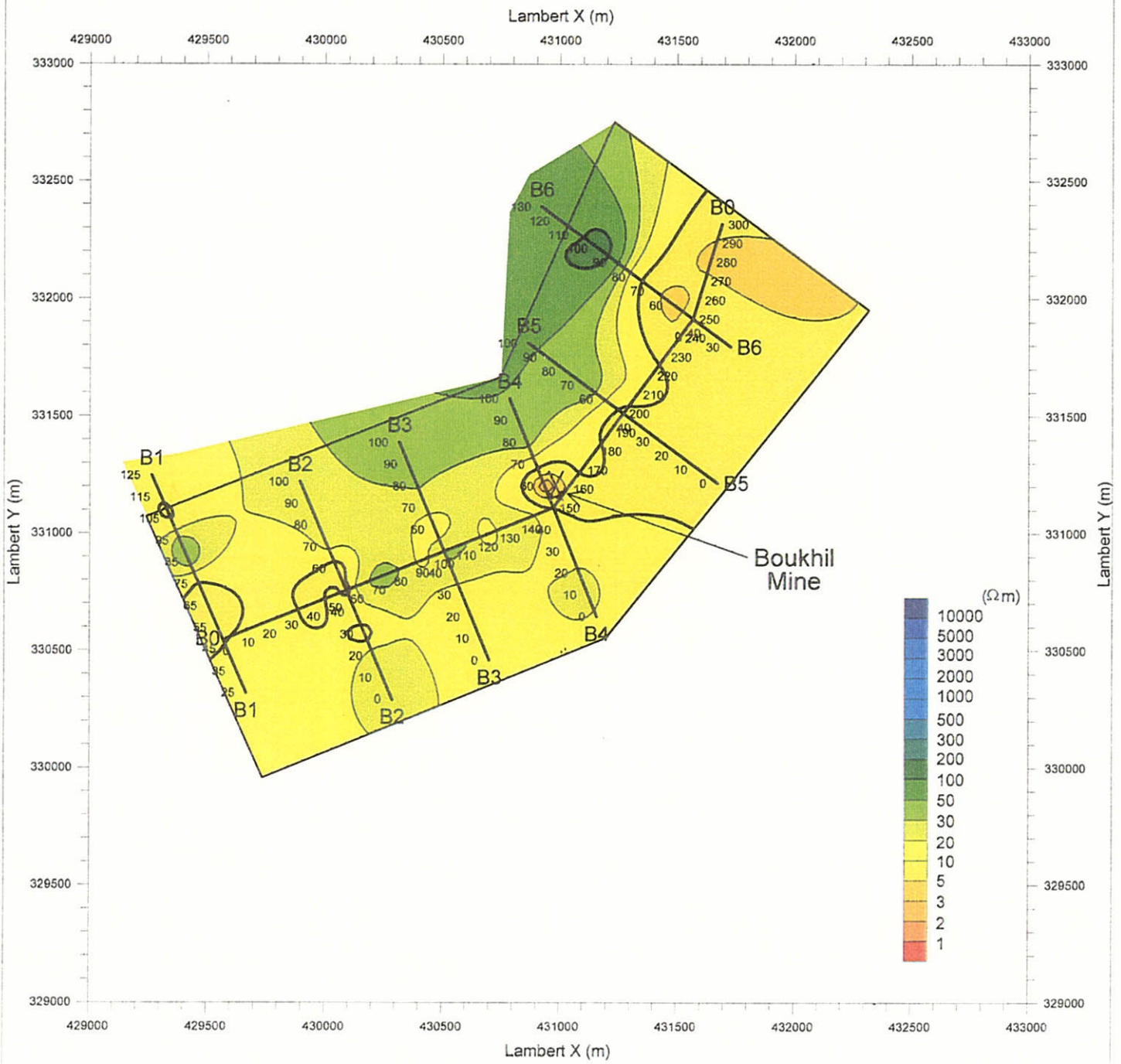
調査地中央部のセレスタイト変質のあるB0-100付近、プキル鉱山採掘跡から北東のB0-180付



Legend

- : IP survey Line
- : Survey Area
- XX : Closed Mine

図 57
ブキル地区見掛比抵抗平面図 (n=1)
1 : 25,000
March, 2000



Legend

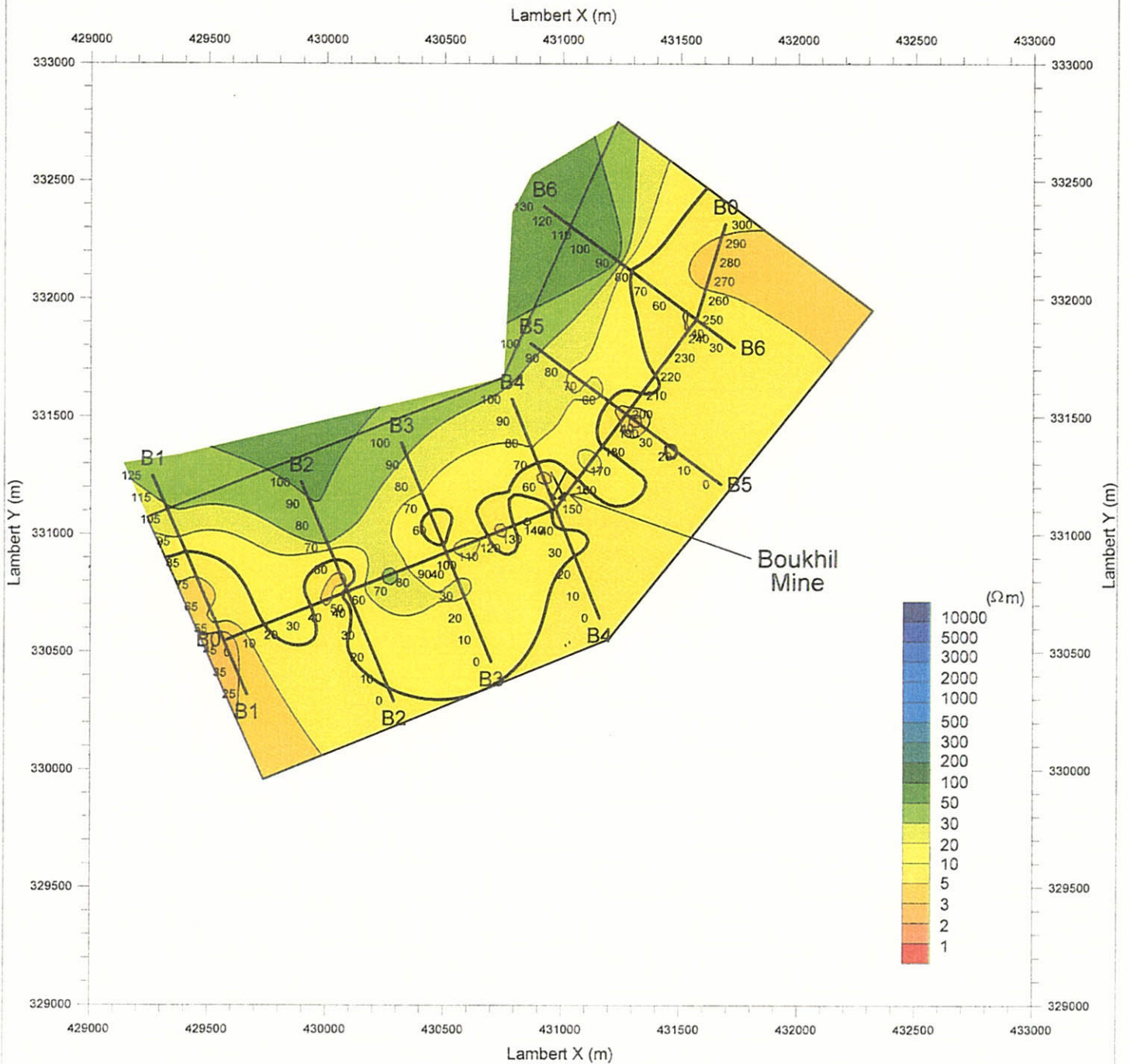
- : IP survey Line
- : Survey Area
- ⊗ : Closed Mine

図 58

ブキル地区見掛比抵抗平面図  
(n=2)

1 : 25,000

March, 2000



Legend

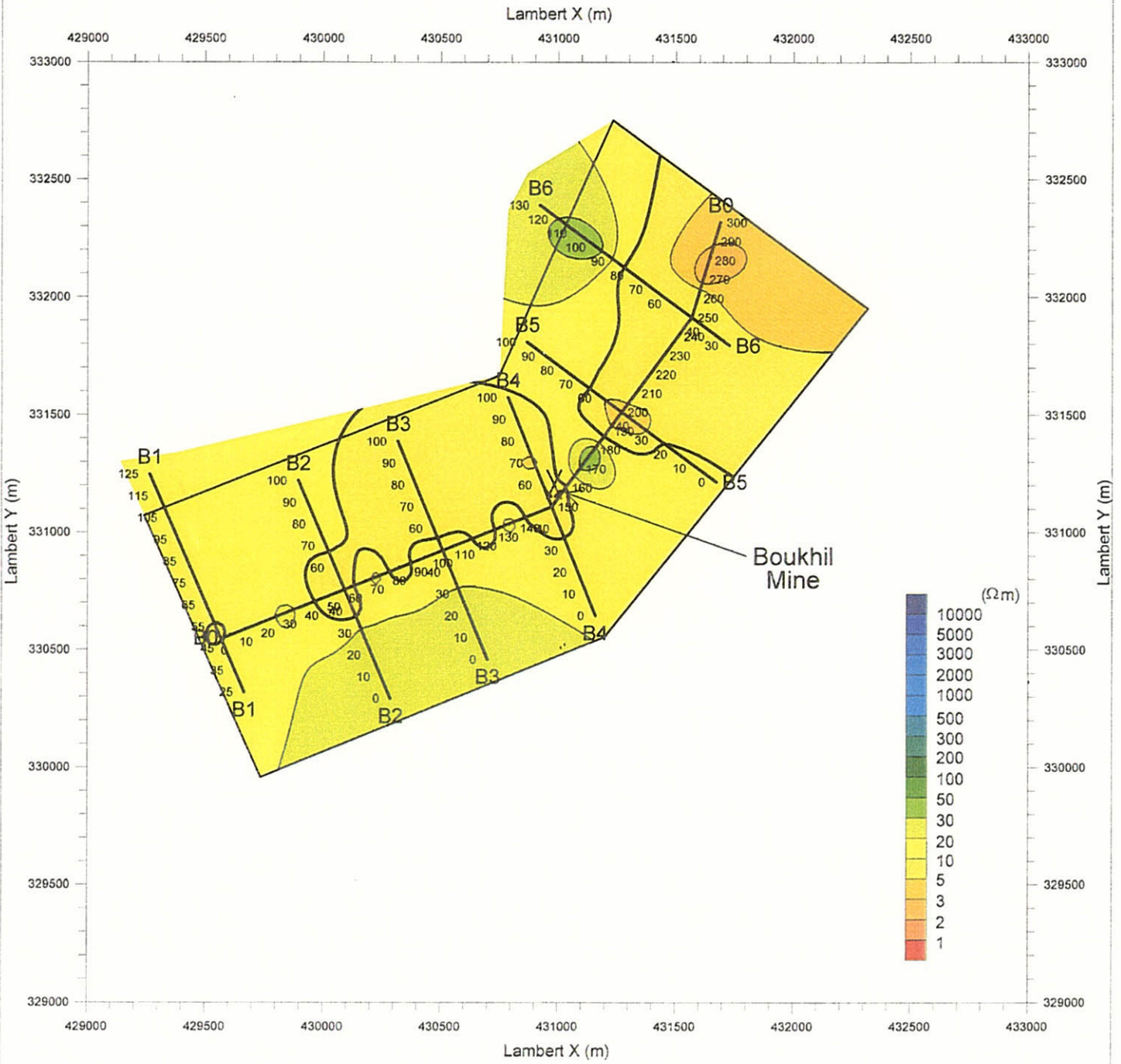
- : IP survey Line
- : Survey Area
- XX : Closed Mine

図 59

ブキル地区見掛比抵抗平面図  
(n=3)

1 : 25,000

March, 2000



Legend

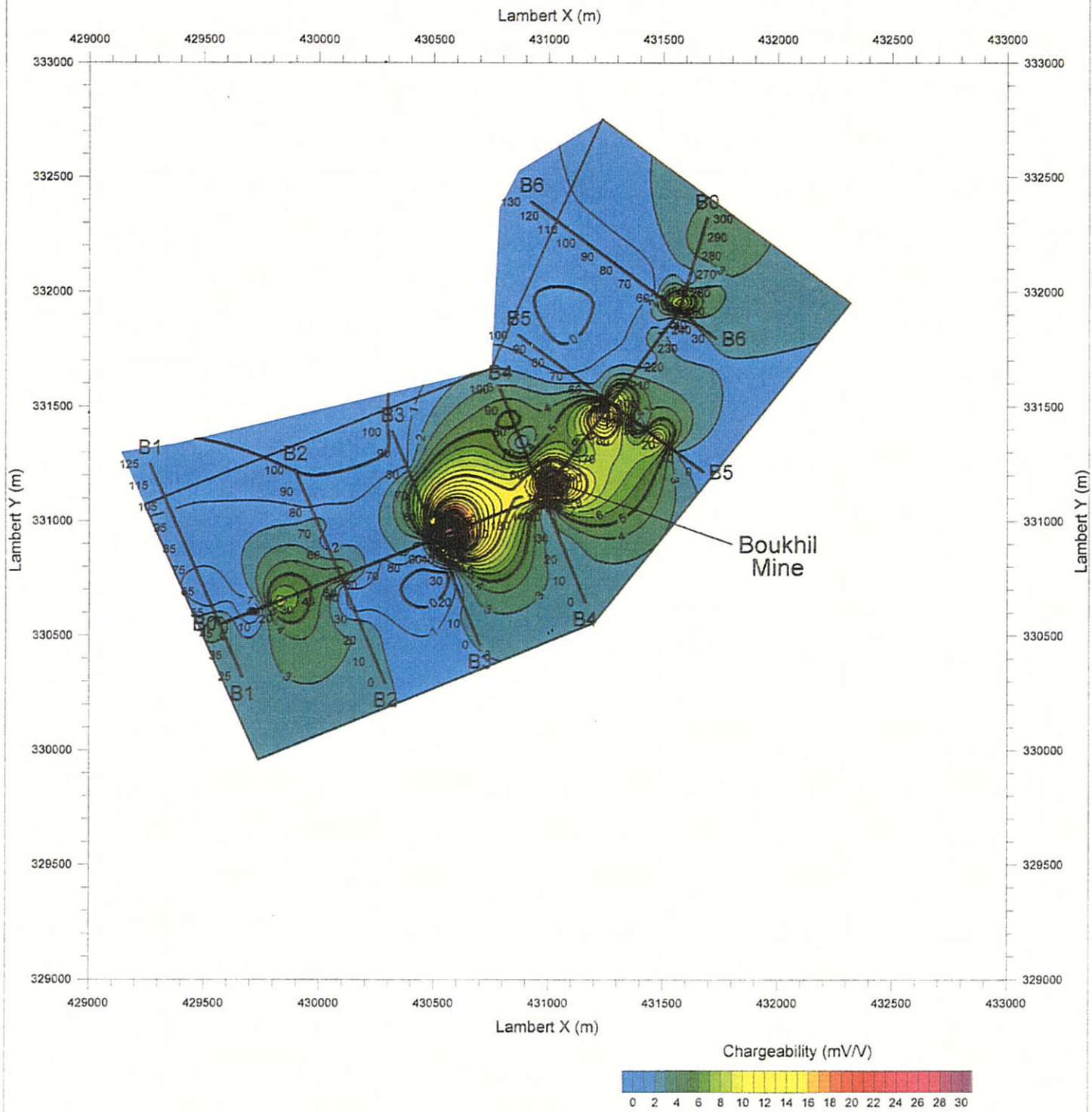
- : IP survey Line
- : Survey Area
- XX : Closed Mine

図 60

ブキル地区見掛比抵抗平面図  
(n=4)

1 : 25,000

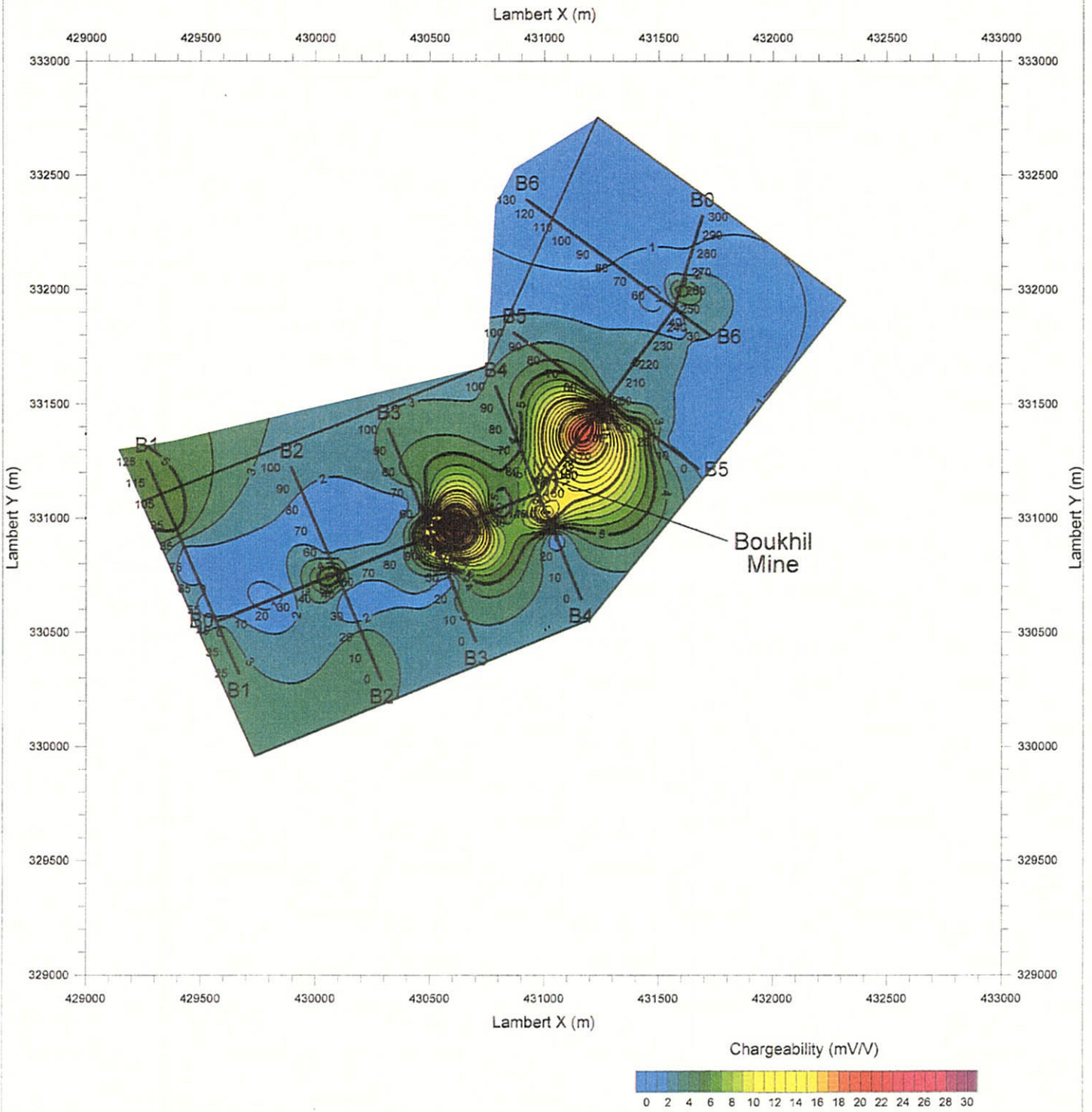
March, 2000



Legend

- : IP survey Line
- : Survey Area
- XX : Closed Mine

図 61
ブキル地区分極率平面図 (n=1)
1 : 25,000
March, 2000



Legend

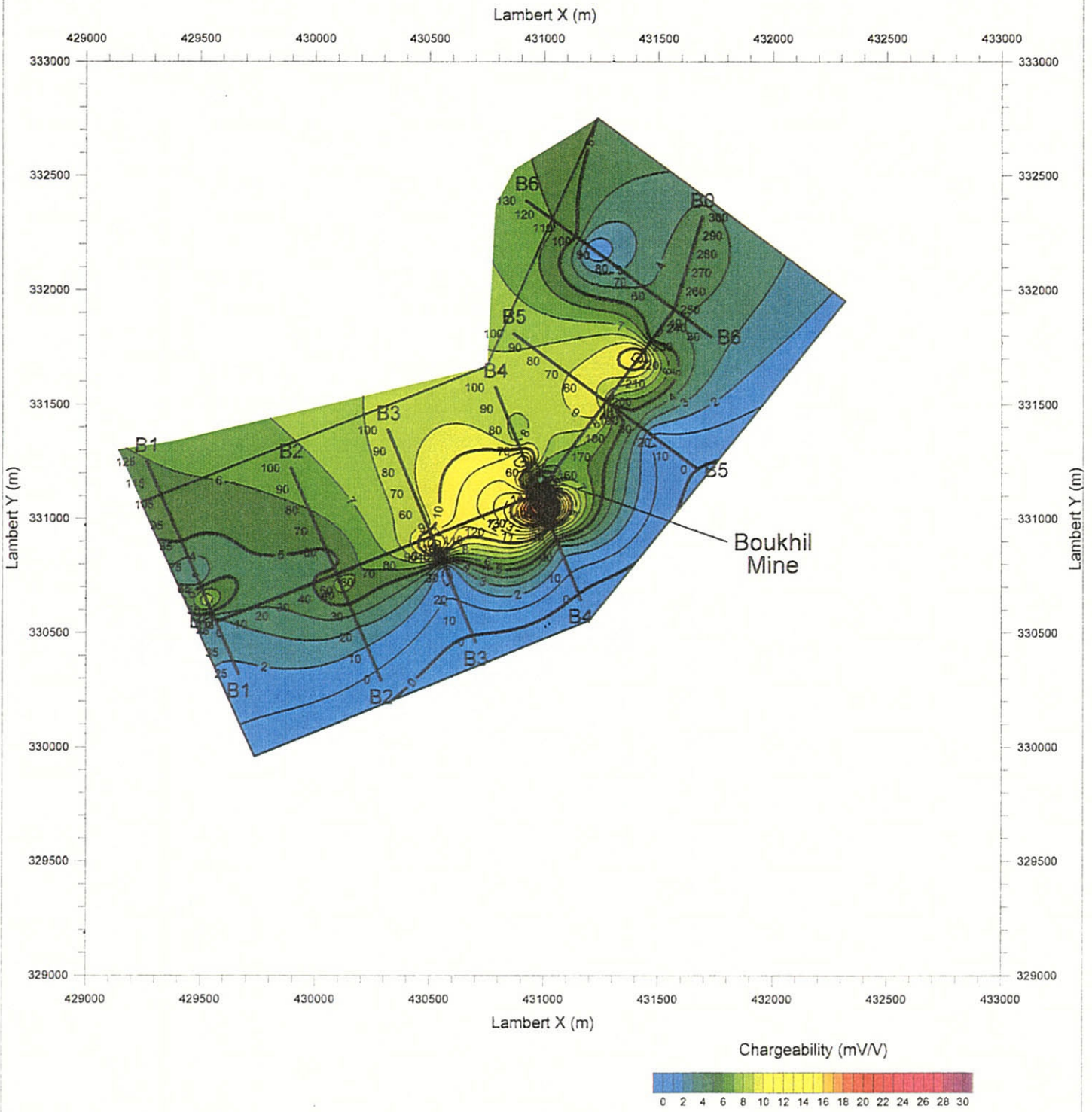
- : IP survey Line
- : Survey Area
- XX : Closed Mine

図 62

ブキル地区分極率平面図  
(n=2)

1 : 25,000

March, 2000



Legend

- : IP survey Line
- : Survey Area
- XX : Closed Mine

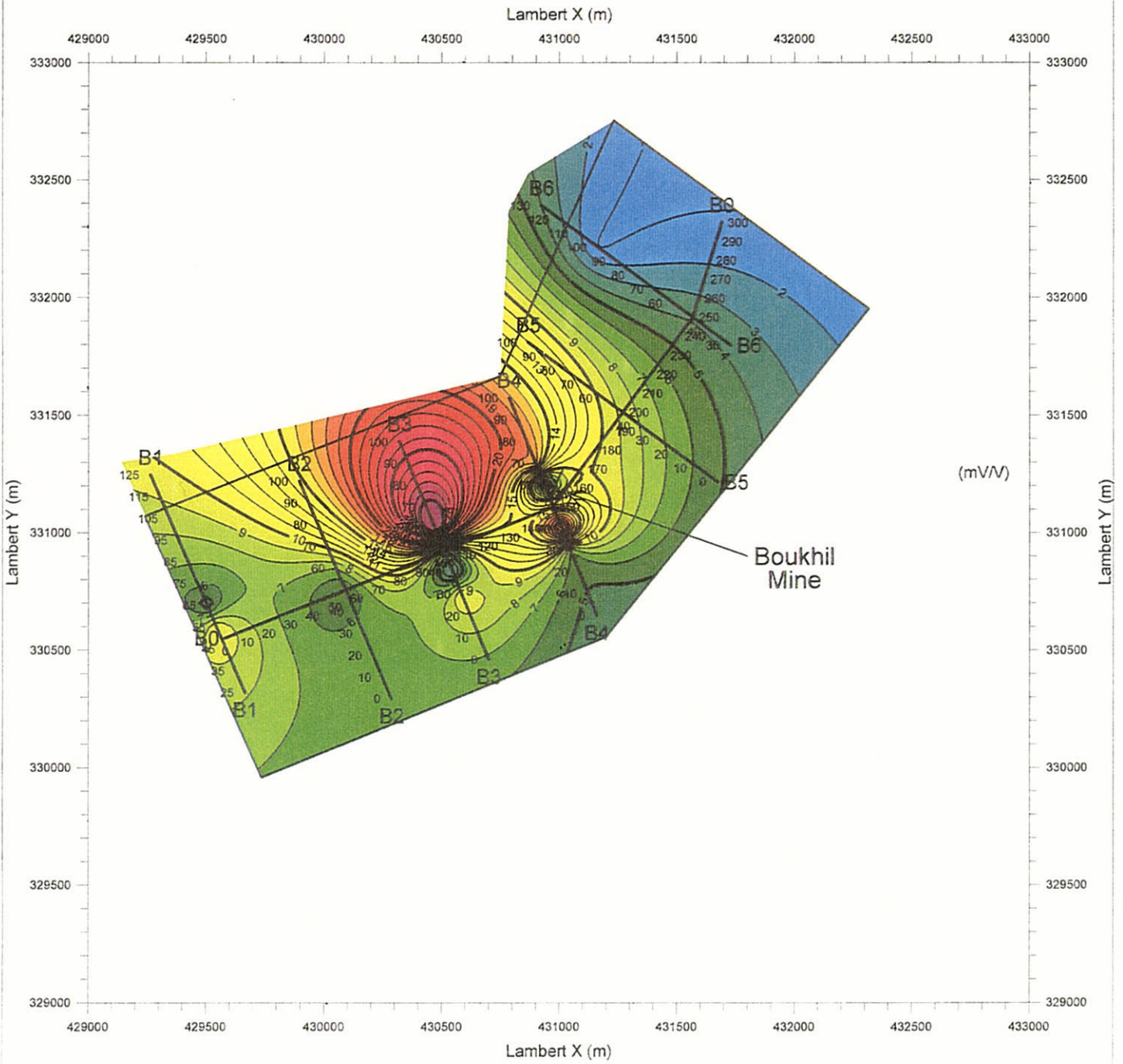
図 63

ブキル地区分極率平面図  
(n=3)

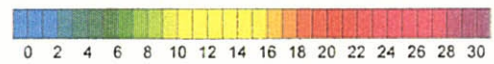
1 : 25,000

March, 2000





Chargeability (mV/V)



Legend

- : IP survey Line
- : Survey Area
- XX : Closed Mine

図 64

ブキル地区分極率平面図  
(n=4)

1 : 25,000

March, 2000

近に10mV/V以上の分極率異常がある。それ以外に有意な異常は認められない。

③測定分極率平面図 n=3(図63)

調査地中央部のセレスタイト変質のあるB0-100付近、ブキル鉱山採掘跡付近のB4-40付近に10mV/V以上の分極率異常がある。それ以外ではB0-220付近に小さな分極率異常があるほかには有意な異常は認められない。

④測定分極率平面図 n=4(図64)

調査地中央部のセレスタイト変質やブキル鉱山採掘跡付近から北西側の丘陵部に10mV/V以上の強い分極率が分布し、B3測線に付近で特に強い異常を示す。

(2) 解析比抵抗及び分極率

本地区の解析比抵抗は0.1~1,127Ω mの範囲にあり、その平均値は約80Ω m程度である。

調査地を縦断するB0測線のすぐ北西側にある三畳系と白亜系の接触部に沿って、1Ω m以下の低比抵抗帯が分布する。この低比抵抗帯は重力探査で得られた低密度帯の分布とほぼ対応することから、空隙率の大きい岩石が分布することを示唆しており、めくれ上がった三畳系ダイヤピルの外側翼部又は固結度の低い第三系の砂岩・泥岩に相当すると考えられる。

室内試験結果などと比較すると、想定される比抵抗に比べてかなり低い比抵抗として解析されている。しばしば、逆解析で起こる過小評価を考慮しても、1Ω m以下の海水並の比抵抗を示す間隙水の存在を想定すべきと思われる。

調査地中央部のブキル鉱山採掘跡やセレスタイト変質帯はこの低比抵抗の直上にあり、この低比抵抗帯が鉱化作用と関連している可能性も考えられる。しかし、この低比抵抗帯は鉱化のない地域にも分布することから、直接的な関連は論じられない。

調査地北西側丘陵部では、100Ω m以上の高比抵抗が分布する。高比抵抗の岩石は高密度を示すことが多く、高密度を示す白亜系石灰岩に対比することができる。しかし、一部は低密度が想定される三畳系分布域にも対応する。三畳系中にも、調査地西部のB1-100付近のように高残差重力を示す場所もあり、浅部に分布する石灰岩などによって高比抵抗を示しているとも考えられる。または、三畳系の分布域では地形が急に傾斜が大きくなり、保水能力が小さく空隙率の大きい岩石が分布するために、地下水面の深度が相対的に深くなり、間隙水の飽和度が小さな範囲が広がって高比抵抗を示したとも考えられる。

調査地東部から南部にかけて広がる平野部では、浅部で低比抵抗を示し、深部に向かって比抵抗が高くなる傾向がある。浅部には固結度の低い第三系、第四系の堆積物が広がり、深部には石灰岩を主体とする白亜系岩石が分布することを示唆していると考えられる。ブキル鉱山採掘跡のように地表に鉱化が認められるB3測線からB5測線にかけては、三畳系と白亜系の接触部に沿う低比抵抗帯の平野側で深部の高比抵抗が少し盛り上がる傾向にある。この傾向は重力解析断面(図43~48)にも認めることができる。この傾向は前述の低比抵抗帯と同様、鉱化作用の直接的な関連までは論じられないが、一つの探鉱指標にはなりうると思われる。